

汎用演算増幅回路

μ PC151, 741は高安定度の演算増幅回路で、入力電圧範囲が広く、位相補正回路を必要としません。出力の短絡保護回路、オフセット調整用の端子を備えており、各種の帰還増幅回路、比較回路に幅広く使用できます。

使用セット、動作温度範囲に応じて通信工業用の μ PC151と一般用の μ PC741があります。

またシリーズ品として、同一回路構成でデュアル・タイプの μ PC251, 1458もあります。

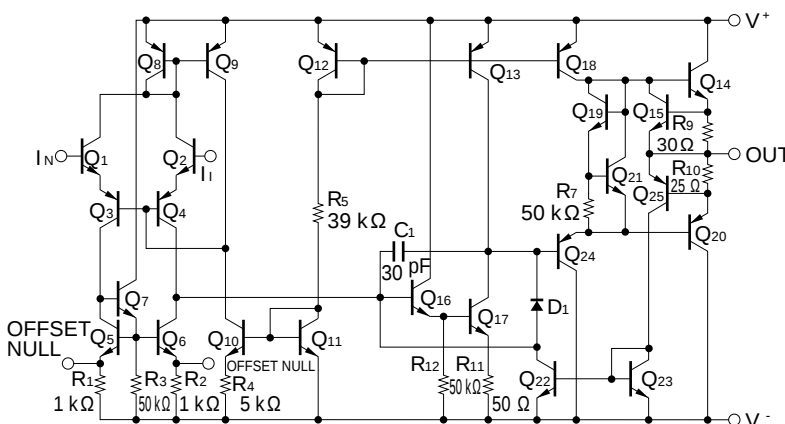
特 徴

- ・入力オフセット電圧 ± 1 mV (TYP.)
- ・入力オフセット電流 ± 20 nA (TYP.)
- ・入力バイアス電流 80 nA (TYP.)
- ・大振幅電圧利得 200000 (TYP.)
- ・周波数補償の必要がありません。
- ・入力電圧範囲が広く、ラッチアップが起きません。
- ・オフセット調整用端子が付いています。
- ・出力短絡保護回路を内蔵しています。

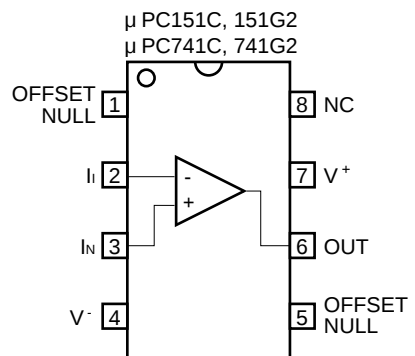
オーダ情報

オーダ名称	パッケージ
μ PC151C	8ピン・プラスチックDIP (300 mil)
μ PC151G2	8ピン・プラスチックSOP (225 mil)
μ PC741C	8ピン・プラスチックDIP (300 mil)
μ PC741G2	8ピン・プラスチックSOP (225 mil)

等価回路



端子接続図 (Top View)



備考 NC : No Connection

本資料の内容は、予告なく変更することがありますので、最新のものであることをご確認の上ご使用ください。

絶対最大定格 (T_A = 25)

項 目	略 号	μ PC151C	μ PC151G2	μ PC741C	μ PC741G2	単位
電源電圧 ^{注1}	V ⁺ - V ⁻	- 0.3 ~ + 36				V
差動入力電圧	V _{ID}	± 30				V
入力電圧 ^{注2}	V _I	V ⁻ - 0.3 ~ V ⁺ + 0.3				V
出力印加電圧 ^{注3}	V _O	V ⁻ - 0.3 ~ V ⁺ + 0.3				V
全損失	P _T	350 ^{注4}	440 ^{注5}	350 ^{注4}	440 ^{注5}	mW
出力短絡時間 ^{注6}		無 限 大				s
OFFSET NULL-V ⁻ 間電圧差		± 0.5				V
動作周囲温度	T _A	- 40 ~ + 85		- 20 ~ + 80		
保存温度	T _{stg}	- 55 ~ + 125				

注1．電源の逆接続は破壊の可能性がありますのでご注意ください。

2．特性劣化や破壊がなく、入力端子に印加可能な入力電圧範囲です。

電源ON/OFF時などの過渡状態も含めて定格を越えないようにご注意ください。なお、オペアンプとして正常動作する入力電圧は、電気的特性の同相入力電圧範囲 (V⁻ + 2 V ~ V⁺ - 0.5 V (TYP.)) です。

3．特性劣化や破壊がなく、出力端子に外部から印加可能な電圧範囲です。

電源ON/OFF時などの過渡状態も含めて定格を越えないようにご注意ください。

なお、オペアンプとして得られる出力電圧は、電気的特性の最大出力電圧の範囲内です。

4．T_A = +55 での値です。T_A > 55 では - 5.0 mW/ でディレーティングしてください。

5．T_A = +25 での値です。T_A > 25 では - 4.4 mW/ でディレーティングしてください。

6．全損失および注4, 5のディレーティング以下でご使用ください。

推奨動作条件

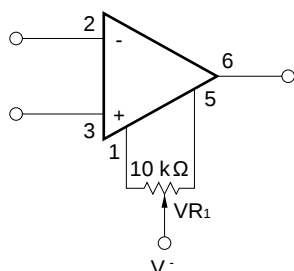
項 目	略 号	MIN.	TYP.	MAX.	単位
電源電圧 (両電源)	V [±]	± 7.5		± 16	V
電源電圧 (V ⁻ = GND)	V ⁺	+ 15		+ 32	V
負荷電流	I _O		± 2	± 5	mA

電氣的特性 ($T_A = 25$, $V^\pm = \pm 15$ V)

項 目	略 号	条 件	MIN.	TYP.	MAX.	単 位
入力オフセット電圧	V_{IO}	$R_S = 10\text{ k}\Omega$		± 1.0	± 6.0	mV
V_{IO} 温度変化	$\Delta V_{IO}/\Delta T$	$R_S = 10\text{ k}\Omega$		± 3	± 30	$\mu\text{ V/}$
入力オフセット電流	I_{IO}			± 20	± 200	nA
入力バイアス電 流 ^{注7}	I_B			80	500	nA
大振幅電圧利得	A_v	$R_L = 2\text{ k}\Omega$, $V_O = \pm 10\text{ V}$	25000	200000		
V_{IO} 可変範囲		$VR_1 = 10\text{ k}\Omega$ (オフセット調整法参照)		± 15		mV
回路電流	I_{CC}	$I_O = 0\text{ A}$		1.5	2.8	mA
消費電力	P_d	$I_O = 0\text{ A}$		45	85	mW
同相信号除去比	CMR	$R_S = 10\text{ k}\Omega$	70	90		dB
電源変動除去比	SVR	$R_S = 10\text{ k}\Omega$		30	150	$\mu\text{ V/V}$
最大出力電圧	V_{om}	$R_L = 10\text{ k}\Omega$	± 12	$\begin{smallmatrix} +14 \\ -12 \end{smallmatrix}$		V
最大出力電圧	V_{om}	$R_L = 2\text{ k}\Omega$	± 10	$\begin{smallmatrix} +13 \\ -11 \end{smallmatrix}$		V
同相入力電圧範囲	V_{ICM}			$\begin{smallmatrix} V^+ - 0.5 \\ V^- + 2 \end{smallmatrix}$		V
出力短絡電流	$I_{O\text{ short}}$	$R_L = 0\text{ k}\Omega$	5	20		mA

注7．入力バイアス電流の方向は，初段がNPNトランジスタで構成されておりますので，ICへ流れ込む方向です。

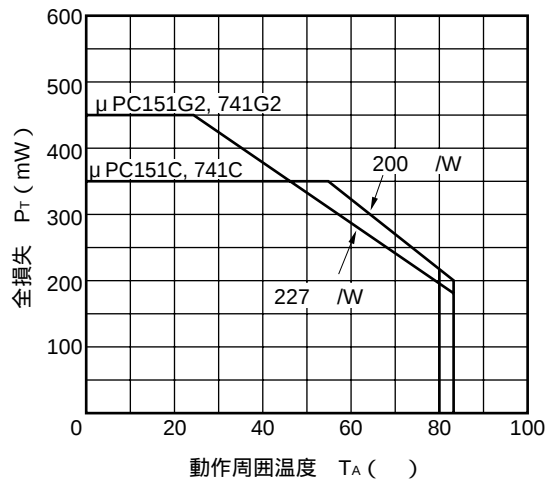
オフセット調整法



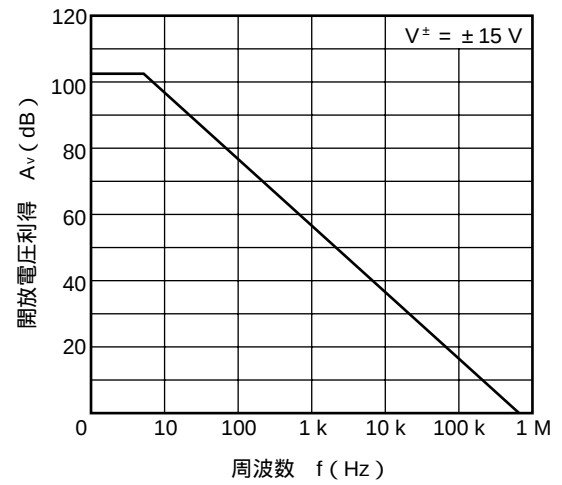
備考 OFFSET NULL端子は，オープンにするか，上図のように抵抗を通じて V^- に接続して使用してください。 V^- 以外への接続は，誤動作，特性劣化，破損の原因となります。

特性曲線 ($T_A = 25^\circ\text{C}$, TYP.) (参考値)

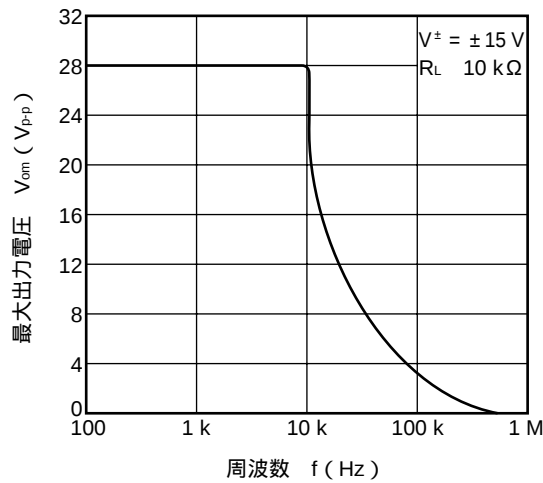
★ $P_T - T_A$ 特性 (絶対最大定格)



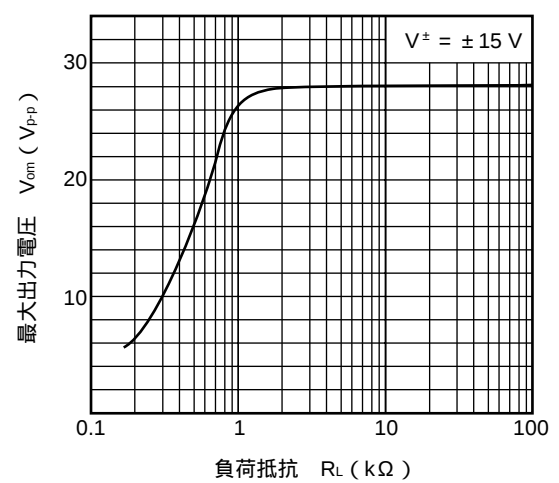
$A_v - f$ 特性



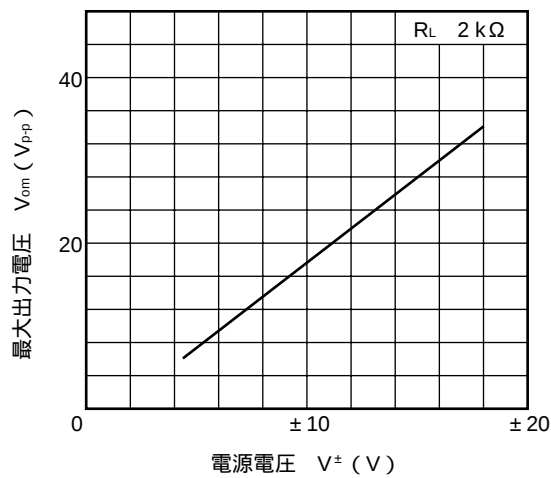
$V_{om} - f$ 特性



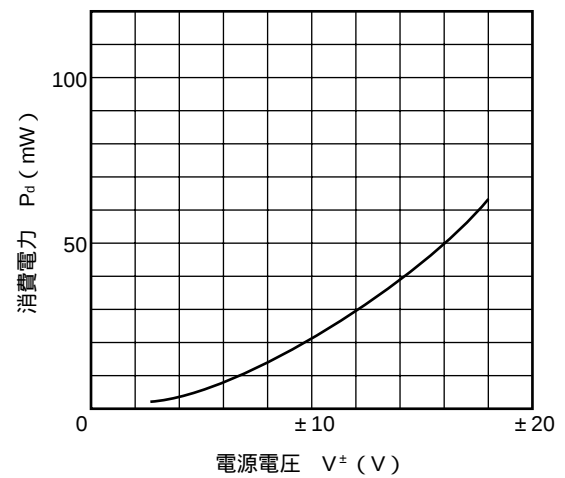
$V_{om} - R_L$ 特性



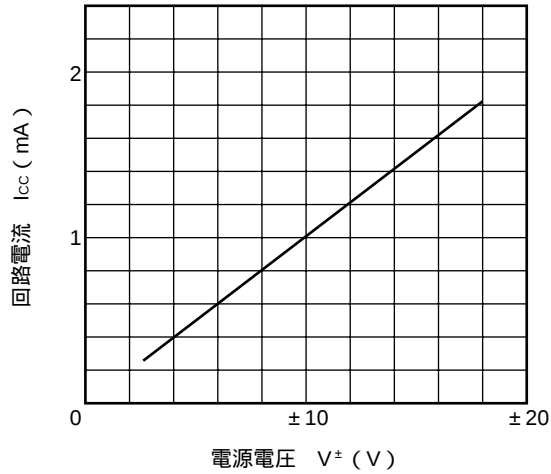
$V_{om} - V^\pm$ 特性



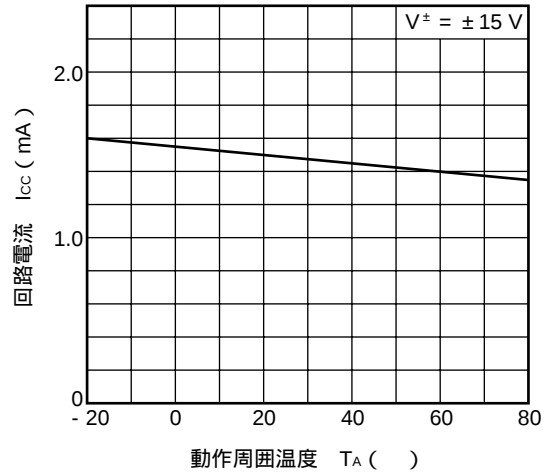
$P_d - V^\pm$ 特性



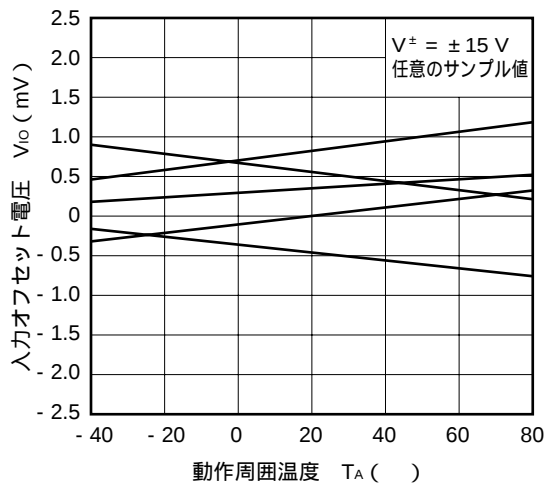
$I_{CC} - V^{\pm}$ 特性



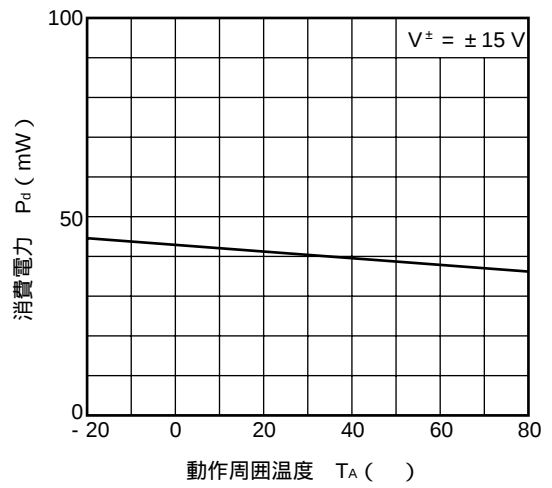
$I_{CC} - T_A$ 特性



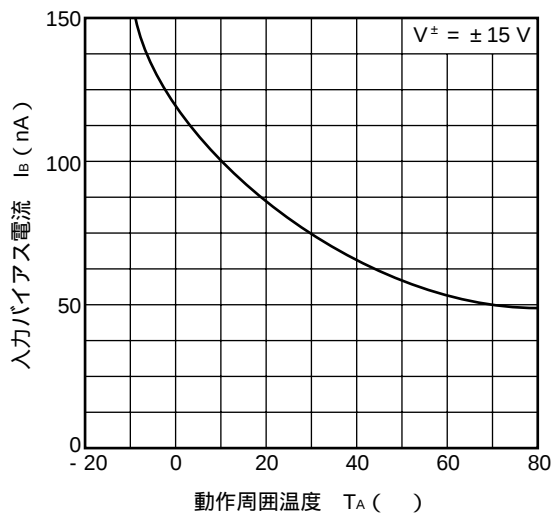
★ $V_{IO} - T_A$ 特性



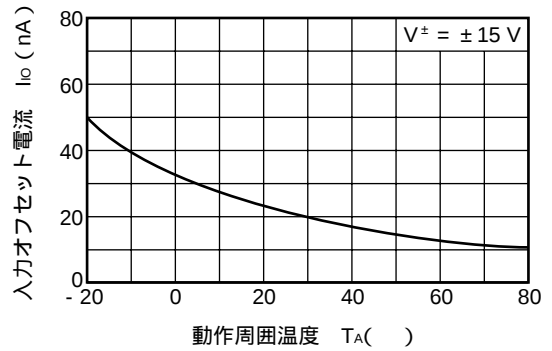
$P_d - T_A$ 特性



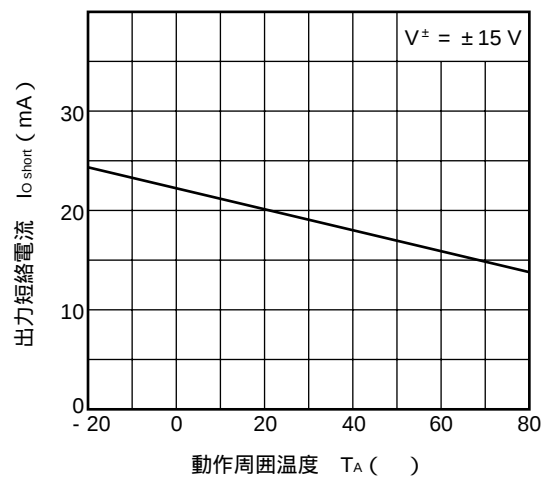
$I_B - T_A$ 特性



$I_{IO} - T_A$ 特性



$I_{O\ short} - T_A$ 特性



使用上の注意事項

○ 使用電源（両電源 / 単電源）について

オペアンプは $V^+ - V^-$ 間に所定の電圧が印加されていれば動作します。したがって、単電源（ $V^- = \text{GND}$ ）でも動作しますがGND近辺の入力、出力の動作ができませんので、同相入力電圧範囲、最大出力電圧に注意してご使用ください。

○ 入力端子電圧、出力端子電圧の定格について

入力端子、出力端子の電圧が絶対最大定格を越えた場合には、IC内部の寄生ダイオードが導通し、特性劣化や破損にいたる場合があります。なお、入力端子が V^- より低くなる、もしくは出力端子が電源電圧を越える可能性がある場合には、順方向電圧の小さいダイオード（ショットキー・ダイオードなど）でクランプ回路を設け、保護することを推奨します。

○ 同相入力電圧範囲について

電源電圧が電気的特性の条件と異なる場合の同相入力電圧範囲は次の範囲となります。

$$V_{\text{ICM}} (\text{TYP.}) : V^- + 2 \sim V^+ - 0.5 (\text{V}) \quad (T_A = 25 \quad)$$

なお、設計の際には特性バラツキ、温度特性などを考慮し、余裕をもって使用してください。

○ 最大出力電圧について

電源電圧が電気的特性の条件と異なる場合の最大出力電圧のTYP.値は次の範囲となります。

$$V_{\text{om}^+} (\text{TYP.}) : V^+ - 1 (\text{V}) \quad (T_A = 25 \quad), \quad V_{\text{om}^-} (\text{TYP.}) : V^- + 3 (\text{V}) \quad (T_A = 25 \quad)$$

なお、設計の際には特性バラツキ、温度特性などを考慮し、余裕をもって使用してください。

また、出力電流が大きくなると、出力電圧範囲（ $V_{\text{om}^+} - V_{\text{om}^-}$ ）は狭くなりますので、注意してください。

○ ICの取り扱いについて

基板のソリや曲がりなどによりICに応力が加わると、圧電（ピエゾ）効果により特性が変動します。基板のソリや曲がりに注意してください。

代表的オペアンプの主特性一覧表

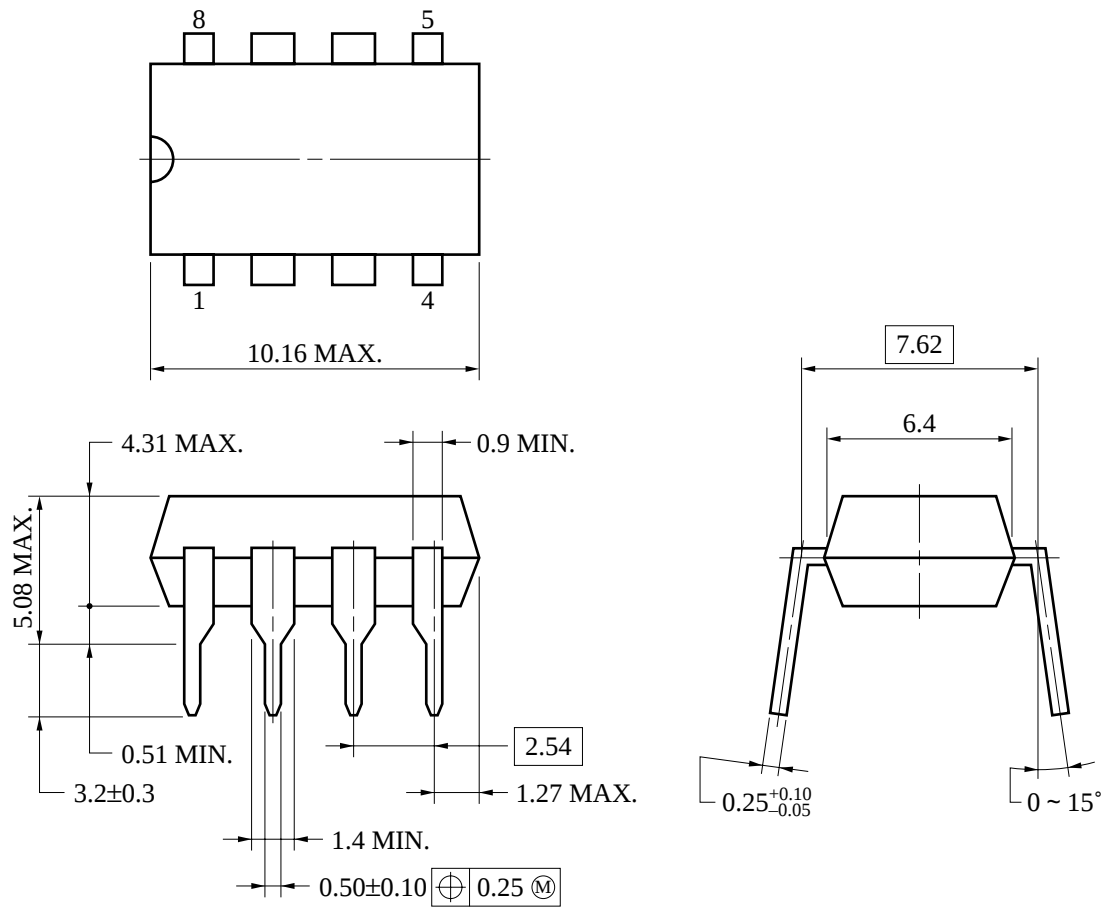
分 類	品 名		電源電圧 (推奨値)	回路電流 I _{CC} (mA) MAX.	標準スルーレート SR (V/μs) TYP.	入力オフセット電圧 V _{IO} (mV) MAX.
	通工用	一般用				
低ノイズ	μPC258	μPC4558	±4 ~ ±16	5.6	1	±6
	μPC458	μPC4741	±4 ~ ±16	7	1	±5
	μPC259	μPC4560	±4 ~ ±16	5.6	2.8	±6
		μPC4570	±4 ~ ±16	8	7	±5
		μPC4572	±2 ~ ±7	7	7	±5
		μPC4574	±4 ~ ±16	12	6	±5
★ ★ 単電源	μPC1251	μPC358	+3 ~ +30	1.2	0.3	±7
	μPC451	μPC324	+3 ~ +30	2	0.3	±7
	μPC452	μPC3403	+3 ~ +32	7	0.8	±7
	μPC842	μPC4742	+3 ~ +32	5.5	7	±5
	μPC844	μPC4744	+3 ~ +32	11	7	±6
★ ★ ★ ★ J-FET入力	μPC801	μPC4081	±5 ~ ±16	2.8	13	±15
	μPC803	μPC4082	±5 ~ ±16	5.6	13	±15
	μPC804	μPC4084	±5 ~ ±16	11.2	13	±15
	μPC821	μPC4071	±5 ~ ±16	2.7	13	±10
	μPC822	μPC4072	±5 ~ ±16	5	13	±10
	μPC824	μPC4074	±5 ~ ±16	10	13	±10
	μPC831	μPC4061	±2 ~ ±16	0.25	3	±10
	μPC832	μPC4062	±2 ~ ±16	0.5	3	±10
	μPC834	μPC4064	±2 ~ ±16	1	3	±10
	μPC811	μPC4091	±5 ~ ±16	3.4	15	±2.5
	μPC812	μPC4092	±5 ~ ±16	6.8	15	±3
	μPC813	μPC4093	±5 ~ ±16	3.4	25	±2.5
	μPC814	μPC4094	±5 ~ ±16	6.8	25	±3
高精度	μPC815		±3 ~ ±20	4.6	1.6	±0.06
	μPC816		±3 ~ ±20	4.6	7.6	±0.06
マイクロパワー	μPC802	μPC4250	±1 ~ ±16	0.1 (可変)	~1	±6

注意 1 . 表中の値は比較する際の参考データとしてお考えください。なお、品種ごとの詳細な特性については個別のデータ・シートを参照してください。

2 . オペアンプの選定法の詳細はインフォメーション資料「オペアンプ、コンパレータの選択法」(G10617J)を参照してください。

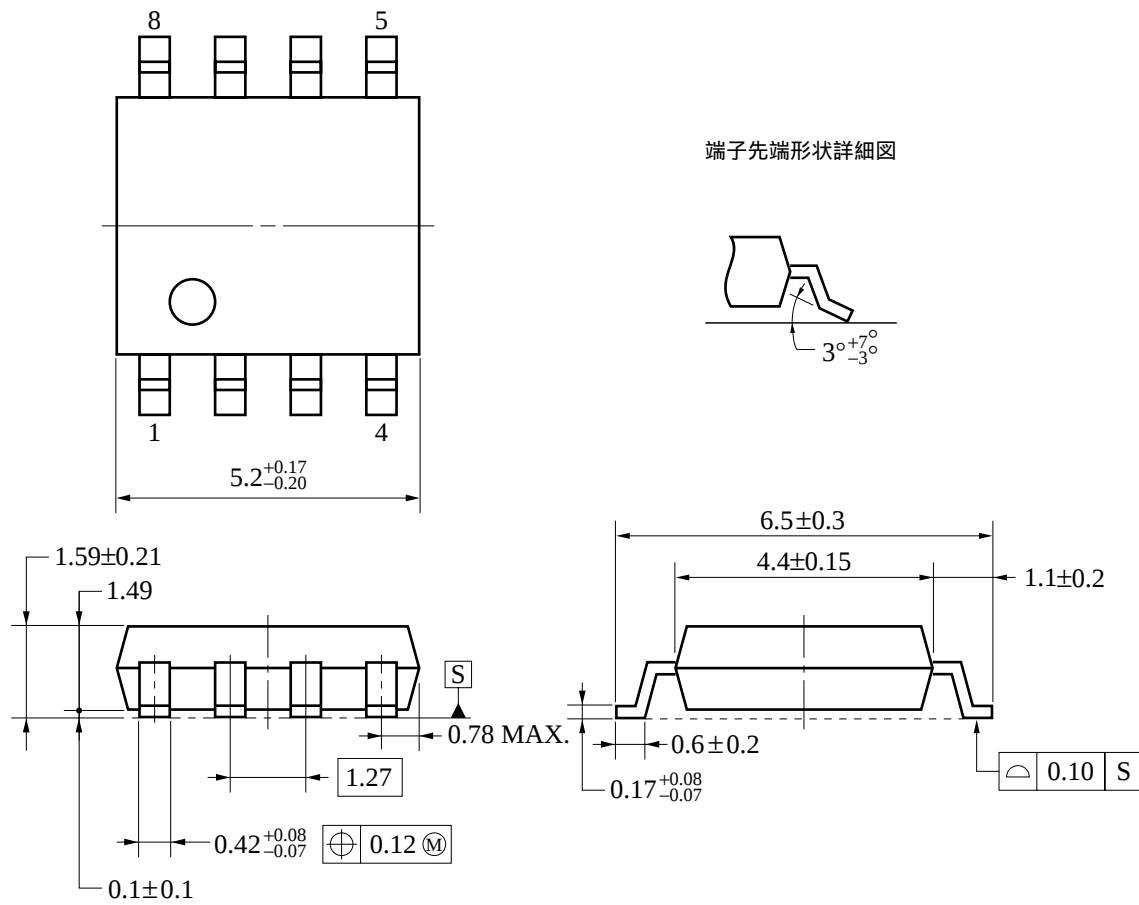
外形図

8ピン・プラスチック DIP (300 mil) 外形図 (単位 : mm)



P8C-100-300B, C-1

8 ピン・プラスチック SOP (225 mil) 外形図 (単位 : mm)



S8GM-50-225B-5

半田付け推奨条件

この製品の半田付け実装は、次の推奨条件で実施してください。

半田付け推奨条件の詳細は、インフォメーション資料「**半導体デバイス実装マニュアル**」(C10535J)を参照してください。

なお、推奨条件以外の半田付け方式および半田付け条件については、当社販売員にご相談ください。

表面実装タイプの半田付け推奨条件

μPC151G2, 741G2：8ピン・プラスチックSOP（225 mil）

半田付け方式	半 田 付 け 条 件	推奨条件記号
赤外線リフロ	パッケージ・ピーク温度：230 ，時間：30秒以内（210 以上），回数：1回	IR30-00-1
VPS	パッケージ・ピーク温度：215 ，時間：40秒以内（200 以上），回数：1回	VP15-00-1
ウェーブ・ソルダリング	半田槽温度：260 以下，時間：10秒以内，回数：1回， 予備加熱温度：120 MAX.（パッケージ表面温度）	WS60-00-1
端子部分加熱	端子温度：300 以下，時間：3秒以内（デバイスの一辺当たり）	-

注意 半田付け方式の併用はお避けください（ただし、端子部分加熱方式は除く）。

挿入タイプの半田付け推奨条件

μPC151C, 741C：8ピン・プラスチックDIP（300 mil）

半田付け方式	半 田 付 け 条 件
ウェーブ・ソルダリング （端子のみ）	半田槽温度：260 以下，時間：10秒以内
端子部分加熱	端子温度：300 以下，時間：3秒以内（1端子当たり）

注意 ウェーブ・ソルダリングは端子のみとし、噴流半田が直接本体に接触しないようにご注意ください。

参考資料

オペアンプの用語と特性	G10147J
オペアンプ，コンパレータの選択法	G10617J
オペアンプ，コンパレータ Q & A 集	G12219J
+5 V動作オペアンプの使い方	G13689J
J-FET入力オペアンプの使い方	G13257J
高精度オペアンプの使い方	G13412J